

内分泌代謝学の優れた研究者に贈る「松尾寿之賞」

信大医学部の新藤隆行教授 受賞

タンパク質の一種の働き解明 臨床応用へ道筋開く

信州大医学部（松本市）の新藤隆行教授（57）は循環病態学Ⅱが、内分泌代謝学の分野の優れた基礎研究者に贈られる第8回「松尾寿之賞」を受賞した。7月初旬に宮城県で開かれた日本内分泌学会主催の「内分泌代謝学サマーセミナー」で授与された。

同賞は、国立循環器病研究センター名誉研究所長の故松尾寿之氏の業績をたたえ、内分泌疾患に関する啓

発活動や若手研究者育成などに取り組み認定NPO法人「日本ホルモンステーション」（京都市）が、毎年授与している。

新藤教授は、血管や心臓などから分泌される物質で、松尾氏らが発見した「アドレノメデュリン（AM）」の研究に長年にわたって従事。AMの持つ多彩な機能を制御するタンパク質「RAMP（ランプ）」の働きを明らかにし、臨床応用への道筋を開いたことが高く評価された。

新藤教授は今回の受賞に当たり「松尾先生は心臓や血管の研究者にとつてまさにレジェンド的存在であり、今回その名を冠した賞を頂いたことは身に余る光栄。賞の名に恥じないよう、これからも研究に精進したい」とした。



新藤隆行教授